

次のとおり令和 8 年度市民活動支援センター第 2 回運営委員会の報告を致します。

会 議 名		令和 8 年度 第 2 回 調布市市民活動支援センター運営委員会									
開催日時		令和 8 年 5 月 15 日（金） 19 時～21 時									
会 場		市民活動支援センター 活動スペースはばたき									
出席者	委員名	○	安藤雄太	○	村上むつ子		平澤和哉	○	増田健治		
		○	水田征吾	○	大槻昌美	○	石井洋子	○	児山宣孝		
		○	浜本雅樹	○	石正房江		毛利勝	○	ニファ・ジャンマーナ		
			小松明日香	○	松永佳子		吉田真也		櫻木裕久		
		○	田島誠								
	事務局	○	嵐祐子	○	北島正也						
司 会		事務局／運営委員長				記 録		事務局			

社会福祉法人社会福祉協議会市民活動支援センター運営要綱（以下、要綱）第 10 条第 10 項「運営委員会は委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数で決する。」の規定に基づき、12 人の出席により運営委員会は成立していることを確認した。

会議の概要

令和 8 年度第 2 回市民活動支援センター運営委員会が開催された。

本委員会では、令和 7 年度の事業報告案と収支決算報告が行われ、両議案が承認された。

また、市民活動支援センターのスペース利活用に関する一般社団法人からの提案について活発な議論が交わされた。

加えて、今後の市民交流事業（えんがわフェスタとまち活フェスタの発展的統合）の方向性についても検討状況の報告や意見交換が進められた。

サポーター会員減少傾向への今後の対応や市民交流事業等新規事業の実施に向けた課題整理が今後の重要テーマとして挙げた。

1 1 分間近況報告（各委員）

【審議事項】

2 令和 7 年度事業報告案の承認

市民活動支援センター長が令和 7 年度の事業総括について説明を行った。

平成 17 年 2 月のセンター開所以来、自立した市民社会の創造をミッションに事業を展開し 21 年目を迎えた。令和 7 年度は市民活動支援センター中長期運営方針の 3 年目にあたり、運営委員会において前期 2 か年度の振り返りを行った。そのなかで、後期は柱 3 の「えんがわファン্ডによる寄付文化の醸成」に注力する方向性を確認し、下半期の事業に反映した。

ボランティア・市民活動推進係長から個別事業の内容を中心に説明を行った。

《主な取り組み》

- ・市民交流事業「えんがわフェスタ」：えんがわファンド助成団体（過年度含む）の交流を深めるイベントを開催
- ・地域人材養成講座：ファンドレイジングをテーマに講座を開催し、約 20 団体が参加。本講座受講後に各団体がどんな取組を進めているか等情報交換の機会を検討
- ・20 周年記念企画「えんがわミーティング～温故知新～」：歴代運営委員や関係者 43 人が参加し、20 年の歩みを振り返るとともに、これからの調布の市民活動やセンターのあり方等について意見交換を行った。

《課題》

- ・市民交流事業「えんがわフェスタ」は、幅広い市民の参加を目指していたが、結果としてセンター関係者中心のイベントになった。より広い市民参加を促す工夫が必要。

《重点項目（5本の柱）の進捗》

- (1) 市民の地域参加の推進：サマーボランティアや市民交流事業を実施。いかに市民参加を広げていくかが課題。
- (2) パートナーシップの強化：様々な場面で多機関と連携を図ったが、今後は企業など多様な主体との協働が課題。
- (3) えんがわファンドによる寄付文化の醸成：助成団体の自立に向けた支援、えんがわファンドの認知度向上、えんがわファンドに限らず寄付文化醸成の取組が課題。
- (4) 居場所やサードプレイスの周知推進：市民活動助成事業「えんがわファンド」による居場所づくりに取り組む団体の活動助成、広報誌「えんがわだより」で団体の活動を紹介。
- (5) 災害時に備えた支え合いの醸成：災害ボランティアコーディネーター養成講座や災害時要配慮者支援に関する講座、災害ボランティアセンターICT活用訓練を実施。学んだことが災害時に活かせるよう、今後の訓練を積み重ねていくことが課題。

主な意見

- ・来館者数の増加について
→来館者数が前年度比で約 1 万人増加し、コロナ禍以前の水準に回復。業務負荷への懸念も示される。
- ・サポーター会員の減少について
→サポーター会員数の減少傾向の課題解決に向けた取組の必要。退会理由のヒアリングや分析が必要との指摘があり、今後は退会者へのヒアリングや、支払いの利便性向上（キャッシュレス決済やサブスクリプションモデルの検討など）を通じて、支援の継続を促す取組が必要との意見が挙がる。
- ・近隣市との連携について
→防災や企業連携において、調布市単体でなく、府中市や三鷹市など北多摩南部ブロックの他市との広域的な連携を進めてはどうかとの提案あり。

《結論》

質疑応答の後、拍手をもって承認された。

3 令和7年度収支決算報告の承認

- ・市民活動支援センターサービス区分：委託料に対し約92万円の返還金が発生。主な要因は、職員の退職・採用に伴う人件費の差額（約81万円）。
- ・ボランティア活動推進サービス区分：寄付金収入が予算を上回る。えんがわファンドの原資として「入れ歯のリサイクル」益金の増収が報告された。

主な意見

- ・会計科目の見せ方について
 - 「会費収入」という科目が、社協本体の会費なのかセンター独自の会費なのか誤解を招く可能性があるとの指摘あり。一般会計からの繰入金として計上する方が分かりやすいのではないかという意見が挙がる。
 - 社会福祉法人会計基準に基づき仕訳が行われている旨を説明（事務局）
- ・サポーター会費の扱いについて
 - サポーター会費が「事業収入」に計上されている点について意見が挙がる。
 - 特典（はばたきの早期予約など）があるため「寄付」扱いにはならず、寄付金控除の対象外であることを説明。寄付金控除を希望する場合は、サポーター会費ではなく、「寄付金」としてお申し込みを受け付けている旨を説明（事務局）

《結論》

質疑応答の後、拍手をもって承認された。

【協議事項】

4 市民活動支援センター設備の利用及び活用について

《概要》

一般社団法人から、センター内に専用スペースを設置し、レジャー用品、スポーツ用品等を市民に貸し出す活動を行いたいと相談があった。これを受け、市民活動支援センター運営要綱第7条3項「センターの設備の利用及び活用に関すること」の規定に基づき、報告・協議を行った。

主な意見

- ・センターへの新たな来館者を呼び込むきっかけになる。市民の交流促進や環境配慮の観点から非常に良い取り組みではないかと思う。
- ・特定の団体にのみ専用スペースを提供することは公正性の観点で懸念を感じる。
- ・物品の破損や利用者が怪我をした場合のリスクや責任の所在が不明確である。
- ・団体スタッフが常駐しない場合の管理を誰が行うのか。センター職員の負担増につながる可能性があるのではないか。
- ・専用スペースではなく、既存の貸出スペース（はばたき等）を予約利用する形で協力する形を模索できないか。
- ・広報誌やウェブサイトでの活動紹介や期間限定（半年など）でのトライアル実施についても検討してはどうか。

《結論》

多くの意見が挙がったため、運営委員会で挙がった懸案事項等を一度提案団体に伝え、具体的な条件（保険加入、運営体制など）を整理し、再度委員会で協議を行

うこととした。

【報告事項】

5 市民活動支援センター運営報告

(1) 令和8年度市民活動助成事業「えんがわファンド」進捗状況

5/11の申込締切日までに、13団体から申込を受理。今後、選考委員会にて審査予定。

(2) 令和8年度市民交流事業検討状況

8年度は「調布まち活フェスタ」と「えんがわフェスタ」の統合に挑戦し、新たな市民交流事業を創出する方向で検討を開始した。

《概要》

委託元からの提案で、両イベントの強みを活かして一緒に行うことにより、効果的・効率的な事業運営を目指す（テーマ性＋広い集客力）。

《現状と課題》

実行委員会の組織体制、主導権、イベントのコンセプトなどをどうするか、まだ具体的な形は見えてなく、関係者間の丁寧な合意形成が必要との意見が多く挙がった。

《今後の進め方》

5月中に関係者（調布まち活フェスタ実行委員会、市、センター運営委員）での協議の場を設け、具体的な計画を検討する必要性が共有された。

(3) その他5・6月の事業予定

- ① 慈恵医科大学看護学科ボランティア論（5月14日・6月18日）
- ② ボランティアまつり染地（5月24日）
- ③ えんがわファンド公開プレゼンテーション（6月6日）
- ④ 図書館ボランティア説明会（6月9日）
- ⑤ えんがわファンド選考委員会（6月20日）

6 市民活動支援センター運営委員会の開催日時

- ・第3回運営委員会 7月15日（水）19時～21時